

「ぬくもりのある福祉コミュニティ」の実現に向けて

核家族化や少子高齢化、社会経済活動の広域化などの社会構造の変化は、地域社会の生活に大きな影響を与え、多くの住民、特に高齢者や障害者、子育て世帯などが「地域での暮らしにくさ（福祉課題）」を感じながら、その解決の術を得られずにいるという状況にあります。この背景には介護や子育てでの心身の負担など、「家族による支え合い機能の低下」に起因した、制度・サービスだけでは満たされない日常的な困り感があると考えられます。

秦野市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）では、制度のはざ間で社会的孤立を余儀なくされている人たちの課題解決のために、このような「地域での暮らしにくさ」に関するさまざまな情報を正確かつ迅速に受け止めることができる組織と仕組みを作ろうと、平成27年度に「はだの地域福祉総合相談センター（以下『きゃっち。』という。）」を立ち上げました。

本会では、『きゃっち。』の機能強化を図るため、福祉関係機関や専門職と地域関係者とが相互に連携し、支援を展開していけるよう、また、地域の皆様とともに、「ぬくもりのある福祉コミュニティ」の実現に向けて地域福祉を推進していくため、市社協が取り組むべき課題を整理し、平成28年度から32年度までの5年間の具体的な活動についてまとめました。

特に、今回の計画では、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）の活動計画となる地区別計画が、多くの地域住民の皆様参加によって策定され、本計画の第2部に掲載されています。

最後になりますが、本計画の策定にあたり、多大なるご尽力を賜りました岩手県立大学の佐藤嘉夫名誉教授をはじめとする計画推進委員会の委員の皆様、部会やヒアリング調査などを通じ、貴重なご意見をいただきました地域の皆様、市社協特別会員及び関係機関の皆様の皆様のご支援とご協力に厚く感謝申し上げますとともに、引き続き市社協事業にご指導、ご支援くださいますようお願いいたします。

平成28年3月

社会福祉法人秦野市社会福祉協議会
会長 藤村和静